



うえすぎけんしん

上杉謙信は、どんな人だったの



せいじつ
誠実で義理がたく、天下を取る野望をもたなかつた、なその多い越後の武将だよ。

上杉謙信は1530年に、越後国(新潟県)守護代の長尾為景の四男として、春日山城(上越市)で生まれ、林泉寺で天室光育という名僧に教育されました。幼名は虎千代で、元服後は、景虎・輝虎・政虎・謙信と名前を変えました。

越後国の守護代・守護や、関東管領になった

父の死後、後をついだ兄晴景は、病弱で気の弱い人でしたから、一族の人たちは、14歳の謙信をかつぎ出しました。謙信が戦いで名をあげると、晴景がやきもちを焼き、兄弟の間で争いが起こりました。結局、1548年に晴景が隠居し、謙信が晴景の養子という形で、守護代になりました。1550年に守護、1561年には上杉氏をついで関東管領になり、武田氏・北条氏・織田氏などと戦いました。1578年3月、春日山城で脳いっ血でたおれ、49歳で亡くなりました。

天下を取る野望がなかったらしい

謙信は、2度も京都に行って、天皇や将軍に会ったりしました。特に、2度目のときは、大軍を率いて行きましたが、京都を占領したりせず、そのまま帰国しました。彼には、天下を取ろう、という野望がなかったようです。

一般の武将とちがう、なその多い人だった

謙信は、だまし合いをくり返す、一般の武将とちがって、誠実で義理がたく、欲のない人だったようです。春日山城にいるときは、よく毘沙門天を祭ったお堂にこもりました。また、妻も側室ももちませんでした。家来どうしが争い、自分のいうことを聞かないのがいやになって、比叡山にこもったこともあります。このように謙信は、孤独で、変わったことをする、なその多い人だったようです。